

会 議 録（確定稿）

会議名称	第三次西東京市地域福祉活動計画（第12回）策定委員会
日 時	平成25年12月26日（木）午後7時～9時
会 場	田無総合福祉センター3階 第1会議室
出席者	<p>（策定委員） 熊田委員・内田委員・土方委員・高橋委員・岩崎委員・高梨委員・成田委員 田谷委員・白倉委員・三輪委員・畠山委員・鶴澤委員・小松委員・田中委員</p> <p>（事務局） 栗山・齊藤・丸木・鈴木・鶴野・妻屋・長谷川・関根・利光・八阪・廣瀬</p> <p>（コンサルタント） 田口・渡邊</p>
欠席者	陸名委員・尾崎委員・伊佐委員
会議次第	<p><次第></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 委員長挨拶 2. 資料確認 <p><議題></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議録確認 2. 第3期西東京市地域福祉計画の策定状況について 3. 各種ヒアリングの意見集約等について <ol style="list-style-type: none"> ① イベントの際の聞き取り調査結果 ② 策定委員によるアンケートについて ③ ふれあいのまちづくり住民懇談会のヒアリング ④ 市民懇談会での意見集約 ⑤ ふれあいのまちづくり事業の取り組みについて （ふれあいのまちづくり住民懇談会代表者会） 4. 具体的な取り組み～具体的な活動内容について（グループワーク） 5. その他 第13回策定委員会について
配付資料	<p><事前配付資料></p> <p>資料1：第11回策定委員会会議録（未定稿） 資料2：今後の計画検討の流れ 資料3：第3期西東京市地域福祉計画素案 資料4：第三次地域福祉活動計画の体系（案） 資料5：各種ヒアリングの意見集約について 資料6：グループワーク資料</p> <p><基礎資料追加分></p> <p>◎アンケート集計結果 （1）イベントの際の聞き取り調査（2）策定委員によるアンケート</p> <p><確定稿会議録>：第10回策定委員会確定稿会議録</p> <p>ご案内：第3期西東京市地域福祉活動計画（素案）説明会</p>

<p>結 論</p>	<p>◆決定事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前回会議録は、確定稿とする。 2. グループワークで討議した「具体的な活動内容」については、第13回の「議題」として継続して検討する。
	<p><次第></p> <p>事務局より、開会の挨拶に続いて、欠席委員の報告、西東京市生活福祉課小林係長出席について伝えた。</p> <p>1. 委員長挨拶</p> <p>委員長：今年も残すところ5日となり、委員の皆さまにはお忙しい中、お越しいただいたことに感謝する。委員会は本日を含めて残り4回となった。委員の皆さまにはお力添えをいただきたい。</p> <p>2. 資料確認</p> <p>事務局より、当日の資料確認が行われた。</p> <p><議題></p> <p>1. 前回会議録確認</p> <p>委員長：修正点があればご指摘いただきたい。</p> <p>(委員からの異議無し。)</p> <p>委員長：第11回策定委員会会議録は、確定稿とする。</p> <p>2. 第3期西東京市地域福祉計画の策定状況について</p> <p>委員長：行政計画である「第3期西東京市地域福祉計画」は、西東京市が主体となって策定している。本計画は、中間まとめの段階に入っている。策定状況について、委員よりご報告いただく。</p> <p>委 員：平成26年度より5カ年の「第3期西東京市地域福祉計画」の最終素案が確定した。平成26年1月6日から2月7日までパブリックコメントを実施し、その中で、出されたご意見を参考にしながら最終的な計画を策定する予定である。</p> <p>成田委員より、「第3期西東京市地域福祉計画」の構成を紹介した上で、地域福祉活動計画と連携を図るべき部分に該当する計画案の第3章～5章について、資料3を用いて説明を行った。</p> <p>委 員：第3章の計画の目指すもの1.「基本理念」については、第2期計画の取り組みをさらに充実、発展させるため、その基本理念を継承している。また、「やさしさとふれあいに満ちたまちづくりを進めます」という文言については、市の上位計画にあたる西東京市第2次基本構想・基本計画との整合を図っている。理念については「地域でふれあい 支え合う心のかようまち 西東京」とし、第2期計画を継承している。「基本方針」についても第2期を踏襲し、3本柱を立てている。それぞれの柱に</p>

は、2つの「基本目標」を設定し、その内容については、第2期より手直しをしている。また、各「基本目標」につき、3つの施策の方向性を示している。

第4章では、「重点的な取り組み」を記載している。本章ではこれまでの課題、市民の意見をふまえて、重点的な取り組みとして、ほっとネットが中心的な役割を担いながら以下のことを進めていくことを示している。

1. 市内の団体や様々な機関同士を有機的に結び付け、円滑な情報の交換、協力体制の確立などに取り組む
2. 地域のつながりをつくり、孤立を防ぐこと
3. 災害時に備えた平常時の取り組みを行うこと

第5章では「施策の展開」について現状と課題を「基本目標」ごとに記載している。市が把握している現状については「現状」の欄に記載し、アンケート、地区懇談会、団体ヒアリングで得られた結果については「市民の声」の欄に記載をしている。「生の声」を記載することを「第3期西東京市地域福祉計画」の構成の特徴として捉えている。「今後の取り組み」については、施策ごとの方向性を示している。「今後の取り組み」ごとに「施策の方向」、「地域で取り組むこと」、「市が取り組むこと」という構成となっているが、「地域で取り組むこと」が空欄になっていることもまた、第3期計画の特徴の一つとして位置づけられる。個人が住民懇談会、自治会などの活動を通じて話し合いを行い、取り組みを考えていただけるようにスペースを設けた。「地域で取り組むこと」の下部にある「例えば…」については、計画策定の際に実施した地区懇談会等での意見を基に記載している。「地域で取り組むこと」については、西東京市地域福祉活動計画との整合性も図りやすくなっていると思われる。「市が取り組むこと」に関しては、所管課ごとの取り組み内容を抜粋して記載している。

「第3期西東京市地域福祉計画」は、第2期を継承しながら、さらに充実・発展させることを目指す計画である。

委員：年明けの1月11日には、第3期西東京市地域福祉計画（素案）説明会を行う予定である。また、説明会にご参加できない場合は、市のホームページにおいてパブリックコメントを実施するので、そちらでご意見をいただければと思う。

委員長：1月11日に行われる説明会においては「講演」等もあるため、お時間があれば、ぜひご参加いただきたい。地域福祉計画が地域福祉活動計画との整合を図っている点として挙げられることは、説明の中にもあったように、「地域で取り組むこと」が空欄である点だといえる。空欄を設ける計画は他自治体を見ても、まれなケースである。この記載方法は興味深いということだけにとどまらず、地域福祉活動計画の内容がそのまま「地域で取り組むこと」に当てはまることを意味している。この点を意識する必要がある。ただし、市の地域福祉計画は、網羅的に柱立てが行われなければならないことに対し、地域福祉活動計画に関しては、住民が取り組むこと、取り組みたいと思うことを検討するべきであると考えている。

第3期西東京市地域福祉計画について、ご意見等があればお願いしたい。

(委員からの意見は、特に無し)

委員長：地域福祉計画の策定に携わっている方で補足等があればお願いしたい。

(特に無し)

3. 各種ヒアリングの意見集約等について

委員長：委員からのお力添えのもと実施したアンケート、イベント等での聞き取り調査、ふれまち懇談会・市民懇談会でのヒアリングなど、さまざまな機会を設け、本委員会で策定途中である計画について意見をいただいた。それらの結果を共有した上で「具体的な活動内容」に関するグループワークに移りたいと考えている。

①イベントの際の聞き取り調査結果

②策定委員によるアンケートについて

事務局より、資料 5-1 を用いて「イベントの際の聞き取り調査結果」ならびに「策定委員によるアンケートについて」の概要、及び活用方法について説明を行った。

③ふれあいのまちづくり住民懇談会のヒアリング

④市民懇談会での意見集約

事務局より、資料 5-2、5-3 を用いて「ふれあいのまちづくり住民懇談会のヒアリング」ならびに「市民懇談会での意見集約」の結果報告を行った。資料 5-2 の中で「もう少し連携がとれれば、すきまが生まれるのではないかと思う・・・」という文章について、「生まれる」から「埋められる」への訂正を行った。

⑤ふれあいのまちづくり事業の取り組みについて

(ふれあいのまちづくり住民懇談会代表者会)

内田委員より、資料 5-4 を用いて「ふれあいのまちづくり事業の取り組みについて」、代表者会の方向性に関する報告を行った。

委員：「ふれあいのまちづくり」(以下「ふれまち」)を推進するという点において、地域福祉活動計画は、ふれまち住民懇談会の活動そのものであると常に実感している。「地域をよくするための『各地区共通の取り組み』」(資料 5-4)については、ふれまち住民懇談会で取り組みを始めている内容である。市民まつりにおいて、昨年と今年で実施した地域福祉に関するアンケートの中で、ほとんどの回答者が住民懇談会を知らなかったという結果を受けて、「共通の取り組み」を推進しようという動きとなった。各小学校区に住民懇談会があることを回答者に伝えても、活動内容を知らない場合が多かった。地域福祉活動計画、地域福祉計画等は各機関により策定されるが、計画を実施する担い手は市民である。1人ではなかなか取り組みを推進することができないため、地域のふれまち住民懇談会が人と人とのつながりをつくった上で推進することが大切だと思われる。そこで、推進委員会と世話人の代表者で、どのようにすれば地域でつながりをつくることができるかを討議した。その結果、3.11(東日本大震災)を起点に防災に関わる助け合いの必要性が増しているという意見が多く出された。この他に、まちの中で助け合うことを考える場合、一人暮らし世帯のこともまた考慮しなければならない。これを踏まえ、「居場所」があれば良いのではないかという結論に達した。

こうして、平成 26 年度より、ふれまち住民懇談会全体で「防災」と「居場所づくり」を「共通の取り組み」として推進する方向性が固まった。ふれまち住民懇談会の中で既に「防災」や「居場所づくり」の取り組みを各自行っているところもあるが、平成 26 年度より、それらの事例を基に、事例発表の機会を設けながら、各住民懇談会で行うべき取り組みを検討する方向で事業を推進しようと考えている。

委員長：それぞれの結果については、グループワークの中で反映していただきたい。この場で意見があればお願いしたい。

(委員からは特に無し。)

委員長：それぞれの調査結果に目を通すと、共通の意見「声かけ・あいさつ」、「イベント」等があることに気づく。どのような目的で取り組むべきかという観点からいえば、「世代間交流」、「防災」が、どの調査でも共通して多い意見であった。さらに、策定委員会の中でも何度か挙げられたように、調査においても同様に「お世話焼きさん」、「リーダー」が地域づくりにおいては重要であるという意見が多かった。また、策定委員会が出された意見とは異なる意見についてもグループワークの中で参照する必要がある。

4. 具体的取り組み～具体的な活動内容について（グループワーク）

事務局より、資料 6 を用いて第 12 回の検討内容、グループワークの進め方、第 12 回以降の策定スケジュールについて説明を行った。

～～～グループ討議～～～

グループ討議の結果発表

[A 班]

委員：基本目標 1 「“おたがいさま” が活きているまち」について、(1) 「楽しく教えたり、教わったりするきっかけをつくる」という「具体的な取り組み」の「具体的な活動内容」として『「地域スカウトキャラバン」をつくる』ことを考えた。まず人を推薦し、推薦した内容をその人の特技へと発展させ、最終的には特技を活かしたイベントを行うことを目指す。(2) 「世代間の交流のきっかけをつくる」という「具体的な取り組み」については、「世代」にも多様性があるという意見があった。そこで、「具体的な活動内容」には、世代関係なく楽しめるように、「文化をターゲットに、3 世代交流をする」という意見が挙がった。(3) 「困った時に、自ら得た情報で動く」という「具体的な取り組み」の「具体的な活動内容」としては、「防災」への関心が高まっていることから、「防災マップ」をつくることが意見として挙がった。ただし、地域で「防災マップ」をつくるとはいっても、「地域」の範囲は広い。そのため、例えば、公民館サークルなど身近な人たちと狭い範囲で防災マップを作成した上で、範囲を広げていくことが提案された。

[B 班]

事務局：基本目標 2 「みんな笑顔でくらせるまち」については、「楽しい企画づくり」を進めることを「具体的な活動内容」とした。また、「いろいろな団体の交流」を行うということも「具体的な活動内容」として必要で

ある。これは、自分が所属する団体以外の他団体との交流ができるような集まりがあれば参加への関心が持たれやすいのではという考えによる意見であった。基本目標 3『『一歩前へ』を後押しできる情報があるまち』については、「具体的な活動内容」として、「回覧板の再活用」と「西東京市フェイスブック（FB）の活用」が挙げられた。アナログとデジタルの両方を行うべきだという意見からこの 2 つの活動内容とした。

[C 班]

事務局：基本目標 4「家族のようなつながりのあるまち」については、議論を進めていくうちに、第 11 回委員会のグループワークで決定した「具体的な取り組み」と、今回、話し合った内容を入れ替える必要があるのではないかという話し合いがなされた。そこで、「人を思いやる気持ちがある人を増やす」を具体的な取り組みとした上で、前回のグループワークで出された「誰もが立ち寄れる雰囲気のある居場所をつくる」、及び「お世話焼きさんグループをつくる」を「具体的な活動内容」とするという考えを共有した。

基本目標 5「一人ひとりがイキイキできるまち～輝こうスキップしよう！～」については、次回検討とさせていただきたい。

委員長：次回については継続審議を行う。第 14 回については、計画の実施期間である 5 カ年において、どの時点で、またどの期間で基本目標ごとの取り組みを実行するか検討する予定である。第 15 回では完成を目指す。残りの期日は限られているが、調整をしながら検討を進めていきたいと考えている。

5. その他

委員長：本日の策定委員会での審議は終了とする。今年は委員のご協力をいただき、この段階にまで達することができた。来年はリリースに向けて作業を進めていくため、厳しいスケジュールとなるが、ご支援いただけるようお願いしたい。

- ・ 次回委員会日程：平成 26 年 1 月 28 日（火）午後 7 時～
田無総合福祉センター 2 階視聴覚室

以上